地方独立行政法人

大牟田市立病院

令和６年度採用

初期臨床研修医募集要項

目次

１．　臨床研修を始める皆さんに・・・・・・・P１

２．　診療体制・実績・・・・・・・・・・・・・P２

３．　施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・P５

４．　沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・P６

５．　地域医療への貢献・・・・・・・・・・・P７

６．　初期臨床研修について・・・・・・・・・P９

７．　指導医からのメッセージ・・・・・・・・P１３

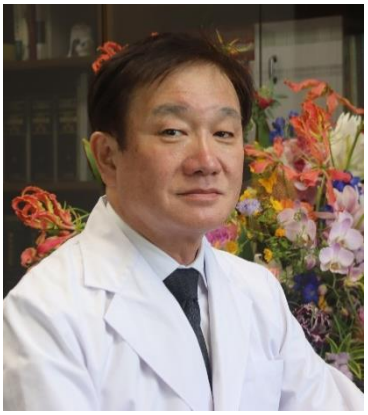
８．　研修医の声・・・・・・・・・・・・・・・P１４

９．　研修中の行事例・・・・・・・・・・・・P２０

１０．募集要項と処遇・・・・・・・・・・・・P２１

１１．アクセス・・・・・・・・・・・・・・・・P２２

1．臨床研修を始める皆さんに



大牟田市立病院は、1985 年に医師法第 16 条に基づく臨床研修病院として厚生大臣指定を受け、その後は、一貫して研修医～専門指導医のペアで、実地臨床研修を行ってきました。現在も当院医師の半数が専門科指導医資格を有しています。さらに現行の初期臨床研修制度に移行した後も卒後初期研修のほか、専門科入局～卒後 5 年目程までの若い医師が大勢勤務しています。このため異なる診療科間でも全く垣根が無く、常に幅広い研修が行えるのが当院の特徴と言えます。

医師にとって「病院」で初期研修を行う目的の一つは、色々な職種のスタッフとチームを組んで、あるいは協働して医療を行うというトレーニングにあります。他職種の専門分野を理解し、どういう援助が求められるか、そして協働した医療行為には互いのコミュニケーションが如何に重要か、学ぶことは数多くあります。プロは、プロによって、プロとして育てられるのが、最良の方法と言えます。

二つ目の研修目的は、経験と判断力を積み上げていくことです。経験と学習に裏付けられた判断力こそ、医療現場の即戦力となるものです。しかし、慌てる必要はありません。特に最初の 2 年間は、専門医師になるための助走期間ととらえてください。基本的な分野で研鑽を積み、基礎固めを行うことこそ、長い医師生活を送っていく上で最も重要なことになります。そのためには、プライマリー疾患を多く経験すると同時に、単なる診断・治療ではなく、一つ一つの診療行為の持つ意味、すなわちリスクと効果を応用出来るようになることが重要です。

大牟田市立病院には、基本的疾患の豊富な経験、良い指導医に巡り会うチャンス、プロとして育てられる厳しさ、そして何よりも研修医個人の向上心を持続させる教育的な包容力が備わっています。ぜひ、この体制を十分に活用して、医師としての第一歩を踏み出してください。

地方独立行政法人大牟田市立病院
理事長・院長　鳥村　拓司

２．大牟田市立病院の診療体制・実績

高度で専門的な医療を提供する地域の急性期病院です。
特に、
☆地域がん診療連携拠点病院
☆災害拠点病院
☆地域医療支援病院
であり、地域のくらしを支えている病院です。

【病床数】320床（一般病床）

（救急病棟20床、腎センター（透析）18床、
外来化学療法センター8床）

【診療体制】(令和5年4月1日現在)　　30診療科

内科、消化器内科、内視鏡内科、腫瘍内科、血液内科、内分泌・代謝内科、
循環器内科、腎臓内科、外科、消化器外科、腫瘍外科、呼吸器外科、
血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、脳・血管内科、麻酔科、
精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科

【救急体制】24時間、365日体制です

当　直　体　制：救急系、内科系、外科系、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、
看護師、小児科（週２回の地域輪番救急当直）※すべて専用当直室あり
拘束バックアップ：内科、外科、循環器内科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、小児科

【職員数】(令和5年4月1日現在)

医師：63人（臨床研修医を含む）　うち女性医師15人
初期臨床研修医：3人
後期臨床研修医（卒後3~5年目）：　8人

（内分泌・代謝内科1人、脳神経外科1人、麻酔科2人、
皮膚科1人、産婦人科3人、）

指導医（卒後7年目以上、指導医講習会受講済み）：27人

（内科系5人、内分泌・代謝内科2人、循環器内科2人、腎臓内科1人、
外科系2人、整形外科1人、脳神経外科3人、麻酔科1人、
小児科1人、皮膚科1人、泌尿器科1人、産婦人科1人、
放射線診断科2人、放射線治療科1人、病理診断科1人、救急科2人）

看護職：300人

認定看護師：8人（救急2人、感染管理2人、集中ケア１人、
皮膚・排泄ケア１人、緩和ケア１人、がん化学療法１人）

医療技術職：96人

事務職：57人

【業務実績】（令和４年度）

延べ外来患者数：年間101,404人（１日平均417.3人）

延べ入院患者数：年間85,900人（１日平均235.3人）

救急患者数：年間4,866人

救急車搬入：年間1,966件

年間手術件数：2,868件

その他検査等：内視鏡検査件数（上部下部）3,663件、消化管透視517件、
CT検査10,880件、MRI検査3,737件、
DSA血管造影・治療179件、
放射線治療（リニアック）2,932件、
病理組織検査3,585件、細胞診2,963件

分娩件数：年間145件

平均在院日数：11.5日

紹介率：90.7％

健診センター：年間健診受診者3,989人、年間特定業務従事者健診受診者378人

【決算状況】17年連続黒字決算継続中

平成17年度	4億5,621万円黒字決算	平成18年度	1億3,536万円黒字決算
平成19年度	1億9,100万円黒字決算	平成20年度	1億2,439万円黒字決算
平成21年度	2億5,676万円黒字決算	平成22年度	5億5,810万円黒字決算
平成23年度	3億2,804万円黒字決算	平成24年度	4億5,338万円黒字決算
平成25年度	2億0,499万円黒字決算	平成26年度	4億5,801万円黒字決算

平成27年度	4億9,370万円黒字決算	平成28年度	5億3,322万円黒字決算
平成29年度	3億9,141万円黒字決算	平成30年度	4億1,287万円黒字決算
令和元年度	3億9,070万円黒字決算	令和２年度	2億6,591万円黒字決算
令和 3年度	3億7,363万円黒字決算		

【施設認定など】

施設認定

■保険医療機関
■地域がん診療連携拠点病院
■厚労省外国医師等の臨床修練指定病院
■救急告示病院
■日本医療機能評価機構認定病院
■地域医療支援病院
■厚労省臨床研修指定病院
■災害拠点病院
■開放型病院
■久留米大学医学部教育関連病院

学会認定

■日本肝臓学会認定施設
■日本消化器病学会専門医制度認定施設
■日本循環器学会循環器専門医研修施設
■日本整形外科学会専門医研修施設
■日本脳神経外科学会専門医研修施設
■日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
■日本臨床細胞学会施設
■日本皮膚科学会認定専門医研修施設
■日本消化器外科学会専門医修練施設
■日本脈管学会認定研修関連施設
■日本眼科学会専門医制度研修施設
■日本救急医学会救急科専門医指定施設
■日本内科学会認定医制度教育関連病院
■日本糖尿病学会認定教育施設
■日本外科学会外科専門医制度修練施設
■日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
■日本麻酔科学会麻酔科認定病院
■日本脳卒中学会認定研修教育病院
■日本高血圧学会専門医認定施設
■日本透析医学会教育関連施設
■日本病理学会研修登録施設
■日本腎臓学会認定教育施設
■日本手外科学会研修施設
■日本医学放射線学会認定研修施設

その他

■身体障害者福祉法指定医療機関
■自立支援医療機関【精神通院医療】
■生活保護法指定医療機関
■労災保険指定医療機関
■国民健康保険診療取扱機関
■指定養育医療機関（未熟児養育医療）
■産科医療補償制度加入医療機関
■指定難病医療機関
■自立支援医療機関【更生医療・育成医療】
■助産施設指定医療機関
■母体保護法指定医療機関
■原爆被爆者指定医療機関
■社会保険各法指定医療機関
■結核指定医療機関
■肝疾患専門医療機関
■指定小児慢性特定疾病医療機関

3．施設

地域基幹研修病院として、最新の医療設備・医療機器を備えています。

●手術支援ロボット：令和5年「DaVinci Xi」導入

●救急外来：平成28年3月に拡充し、充実した救急医療ができるようになりました。

●内視鏡センター：消化管の他、肝・胆・膵疾患と幅広い診断・治療に対応しています。

●放射線診断（320列CT、MRI、アンギオ等）・治療機器

●院内保育所

４．沿革

昭和12年	大牟田市診療所として開院
昭和25年	大牟田市立病院と改称
昭和54年	24時間365日の救急体制開始
昭和60年	臨床研修病院として厚生大臣指定
	久留米大学関連研修病院として正式に臨床研修開始
昭和61年	自治体立優良病院として自治大臣表彰
昭和63年	外国医師等の臨床修練に係る病院として厚生大臣指定
平成 7年	現在地に総工費150億円で新築移転（400床）
	大牟田市立総合病院と改称
平成11年	日本医療機能評価機構の病院機能評価　認定（初回）
	災害拠点病院に指定
平成15年	「地域がん診療拠点病院」として厚労省指定
平成16年	初期臨床研修病院として全国マッチングでの臨床研修開始
	日本医療機能評価機構の病院機能評価　認定更新（2回目）
	全科全領域の電子カルテシステム導入
	400床を350床に減床（在院期間短縮にて）
	代わりに、腎センター増床、外来化学療法センター、健診センター増設
	消化器病センター設置、外科、麻酔科外来の移転増設
平成19年	院外処方箋発行に移行
平成20年	「地域がん診療連携拠点病院」として指定更新
	急性期病院包括医療DPCに移行
	日本医療機能評価機構の病院機能評価　認定更新（3回目）
平成22年4月	「地方独立行政法人大牟田市立病院」となる
	一般病棟7:1看護体制開始
平成23年	電子カルテシステム更新
	院内託児所開所
	医学生・看護学生奨学金貸付金制度創設
平成24年	「地域医療支援病院」として福岡県承認
平成25年	日本医療機能評価機構の病院機能評価　認定更新（4回目）
平成27年	内視鏡センター設置
平成28年	救急外来拡充
平成29年	自治体立優良病院両協議会会長表彰受賞
平成30年	自治体立優良病院総務大臣表彰受賞
	全国公立病院連盟会員病院表彰受賞
	日本医療機能評価機構の病院機能評価　認定更新（5回目）
令和 2年4月	350床を320床に減床

5．地域医療への貢献

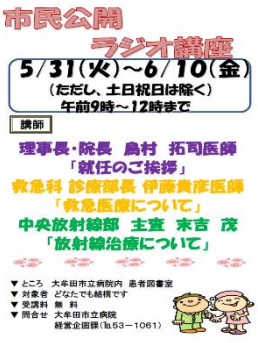
大牟田市立病院は、地域医療へ貢献するため、様々な活動を行っています。

災害拠点病院としてDMATを編成。熊本地震の際に出動しました。その他、ＪＭＡＴとして北部九州豪雨災害の際にも出動しました。

毎年、緩和ケア研修会を開催しています。

臨床病理カンファレンス（CPC）隔月開催
臨床がんカンファレンス（CCC）隔月開催

患者さん向けの健康教室としてラジオやビデオ等を活用した市民公開講座も開催されています。



地域の医療従事者を対象とした救急蘇生講習会では、他の医療機関の医療従事者にも研修を行っています。多くの市民の方が、聴講されます。

平成３０年６月２１日（木）に東京で開催されました「全国自治体病院協議会定時総会」において、当院が「平成３０年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞しました。

この「自治体立優良病院表彰制度」は、全国の自治体病院の経営の健全化への改善努力の成果や地域医療の確保への多大な貢献や取り組みを表彰するもので、「自治体立優良病院両協議会会長表彰」とその上位表彰となる「総務大臣表彰」の２つの賞がありますが、今回の受賞は昨年の「自治体立優良病院両協議会会長表彰」に続く受賞となりました。

受賞の理由としては、当院が地域において救急医療や高度・専門医療を提供している点や、他の医療機関との連携を推進している点が評価されるとともに、経営的にも長年に亘り黒字経営を継続できていることが評価され受賞に至りました。

表彰状

地方独立行政法人大牟田市立病院

大牟田市立病院 殿

貴病院は多年にわたり地域医療の向上に大きく貢献されるとともに健全経営に努められましたよってここに自治体立優良病院として表彰します

平成三十年六月二十一日

総務大臣 野田聖子

6．初期臨床研修について

【当院における初期臨床研修の特徴】

- 有明医療圏で最も多くの診療科を有する急性期病院であり、プライマリ・ケアを豊富に経験できること
- 地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院に認定されており、幅広い研修ができること
- 協力病院（久留米大学病院、米の山病院、筑後市立病院、荒尾市民病院）の初期臨床研修医も当院で研修を行っており情報交換ができること

【研修プログラム】プライマリ・ケアの基本的診療能力（態度・技能・知識）を習得します

1 年次：

4 週	8 週	12 週	24 週		
			12 週	8 週	4 週
救急 （麻酔科）	麻酔科 ・週 1 日救急科 （並行研修）	外科 ・後半 8 週は週 1 日救急科（並行研修） ・週 1 日一般外科外来	内科 ・週 1 日一般内科外来	循環器内科	腎臓内科

※救急科研修は麻酔科 4 週＋麻酔科研修中は週 1 日並行研修

2 年次：

4 週	4 週	4 週	4 週	32 週
地域医療 （共立病院）	精神科 （三池病院）	小児科 ・週 1 日外来	産婦人科	選択科 ・週 1 日救急科（並行研修）

※救急科研修は選択科研修中に週 1 日　並行研修

【主なカンファレンス・レクチャー】担当医としてプレゼンテーションも行います。

①症例カンファレンス：(研修医を対象としたカンファレンス)
研修医が実際に経験した症例を病歴、身体所見及び初期検査を重視して、研修医及び指導医が自由に質疑・応答を行う過程で、プライマリ・ケアの診療能力とプレゼンテーション能力向上を目指す。また、他の研修医の経験症例を共有することで将来の自己の実地診療に活かすことを目標とします。

②当直帯の患者受入れに係る症例検討会：(平日 8：15～8：30)

③臨床病理カンファレンス（CPC）：奇数月第 2 火曜日 19 時～

④臨床がんカンファレンス（CCC）：偶数月第 2 火曜日 19 時～

⑤院内ミニレクチャー：各診療科による研修医を対象としたミニレクチャー（年 22 回）

⑥大牟田消化器研究会：年 4 回

⑦大牟田神経アーベント：年 6 回
⑧大牟田呼吸器カンファレンス：年 4 回
⑨その他：多くの診療科でカンファレンスが開催されています

【院内で資格および受講可能な研修】

- ICLS 研修：年数回実施しており、インストラクターの資格も取得可能
- 緩和ケア研修：初期臨床研修医の間に受講します
- 感染に関する研修：年 2 回以上
- 医療安全研修：年 2 回以上
- 医療倫理研修：年 2 回以上
- 病理解剖について：常勤の病理医の下で、病理解剖時には介助医として参加できます。

【その他】

- **病理解剖：**常勤病理医の下で、介助医として参加。
- **学会参加・発表、病歴要約など：**
  院内外での発表を経験し、将来必要となる各種学会専門医取得に必要な病歴要約や学会発表、症例報告、論文作成をサポートします。学会・研究会への参加費用および旅費支給制度もあります。
- **新・専門医制度への対応**
  新・専門医制度における 19 の基本領域のうち、13 の基本領域において久留米大学病院および聖マリア病院の連携施設となっています。
  13 の基本領域：内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、
  耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理診断科
- **災害医療への参加**
  研修医も JMAT として 2017 年九州北部豪雨災害、2018 年西日本豪雨災害に参加しました。災害拠点病院としての活動に参加できます。
- **筑後地域メディカルラリーへの参加**
  医師・看護師・救急救命士による医療チームを組み、事故や災害などの模擬現場において制限時間内にいかに迅速かつ的確に診断と治療を行うことができるかを競う救急技能コンテストへの参加も可能です。
- **チーム医療**
  呼吸器チーム、感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどチーム医療も充実しており、より専門的な医療を習得できます。
- **学習環境・生活環境**
  学習環境：
  ＊机、インターネット用無線 LAN、棚は全員に完備しています。
  ＊医療情報は院内図書室以外での閲覧以外に、院内 LAN 環境とインターネット環境を利用した電子書籍で多くの洋雑誌や教科書を閲覧できます。
  生活環境：

＊更衣室・仮眠室も充実しています。
＊院内保育所を完備しており、結婚・妊娠・出産にも対応できる研修をサポートしています。
＊希望者は病院宿舎（無料駐車場あり）も利用できます。
＊夏季休暇、年次休暇、産休、育休などの休暇を利用して仕事以外の生活も充実できるようサポートしています。
＊大牟田は、穏やかな気候に恵まれ、過ごしやすい自然環境に加え、美味しい食材も豊富です。

➢ **病院見学は随時実施しております。ご希望の際は下記までご連絡ください。**

連絡先：0944-53-1061（人事課）
Ｅmail：somu@ghp.omuta.fukuoka.jp

当院で研修を修了した初期臨床研修医：平成 16 年度～令和 4 年度

✧ 当院プログラムでの 2 年間初期臨床研修医（基幹型研修医）　計 34 名
出身大学：久留米大学、鹿児島大学、九州大学、佐賀大学、産業医科大学
山口大学、熊本大学、日本医科大学、帝京大学、東海大学、
福岡大学、長崎大学

✧ 研修協力病院としての初期臨床研修医（協力型研修医）　計 170 名
久留米大学病院（久留米市）
米の山病院（大牟田市）
筑後市立病院（筑後市）
荒尾市民病院（荒尾市）

●広々とした医局はインターネット用無線 LAN が完備され、研修医にも机と本棚が貸与されます。

●症例カンファレンス

●有明地区合同研修医カンファレンス（毎年秋開催）

7．指導医（プログラム責任者）からのメッセージ

【プログラム責任者】

伊藤　貴彦（救急科部長）

当院は、福岡の最南端の大牟田市に位置し医療圏は有明医療圏と呼ばれ、有明海を囲む熊本県北部から柳川市辺りまでをカバーする場所に位置します。ベッド数 320 床の急性期病院です。年間救急車搬送件数は 1,800 件前後で緊急手術・緊急処置などを必要とする場合も多くあります。各科専門医の先生を始め若手の先生も多く在籍し、当院のような中核病院の特徴である、「科の垣根」を越えて治療に当たることもあり、そのような環境下での研修は多くの学びがあるのではと思います。

研修医の受け入れは、基幹型研修病院としては毎年 2 名の受け入れですが、協力型研修病院としては、久留米大学病院、筑後市立病院、米の山病院、荒尾市民病院（熊本県）より多数の研修医の受け入れを行っており、各病院の研修医がお互いによい刺激を受けていると思います。また、当院で研修修了後、各科の専門医を目指す先生方も在籍しており、研修中・研修後の相談を行ったり、将来像がイメージしやすい環境かと思います。

初期臨床研修の 2 年間は医師として社会人として先生方の今後に大きく影響する期間と思います。当院で研修を行い、各分野で大きく羽ばたいていただければと思います。

8．研修医の声

【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（令和3年度採用）栗山　紗矢香

大牟田市立病院での臨床研修を始め、あっという 間に二年が経ち研修医生活を終了しました。臨床研修は、 社会人、医師としての生活の始まり、最初は人の生死に携わるという責任の重大さと自分の未熟さに、努力と反省を要する日々でした。重大な責任に晒されず過ごしてきた学生時代とは大きな隔たりがありました。

また診療の中で医学的、社会的な問題に出合い、立ち止まることも多々ありましたが、一緒に悩んでくれる同期、先輩、後輩 がいてくれることが大きな支えとなりました。コロナ禍であり会食はまともに行けず残念ではありましたが、病院内に居てくれるだけで自分も頑張ろうと思える、なくてはならない存在です。大牟田市立病院は研修医の人数は少ないものの、素敵な仲間に出会えたことに感謝しています。

大牟田市立病院は大牟田の中核病院であり、各科において軽症から重症まで数々の疾患をもつ患者さんの診療に携わることができます。救急外来では、軽症から重症まで多くの疾患を経験できます。病棟では、メディカルスタッフの方の協力の下、様々な疾患の経過を担当医として患者さんに一番近い存在で経験ができます。カンファレンスでは、各疾患における問診・身体所見・検査 の解釈のエッセンスを学ぶことができます。カンファレンスで学んだことが臨床で活かせると小さな感動があります。更に著名な専門家を招致しての治療、日常診療のための実践的なレクチャー、研修医同士での勉強会もあります。

大牟田市立病院の医局は、総合医局となっており各科の敷居が低く、他科からのコンサルトにもフットワーク軽くコンサルトに応じてくれる上級医の存在は貴重です。 研修中恵まれた環境に特に感謝しているのは、指導医の先生の熱い指導の下、様々な手技を経験する機会を与えていただけたことです。初めは上手くできず交代してもらうこともあります。その時は悔しくて次は必ず成功したいと強く思い、反省点を振り返り勉強し練習して、一人で完結できるようになった時、その喜びは大きなものです。初めは緊張し怖い気持ちもあり汗をかきながら手技を行います。ですがその後のできることが増えた喜びと達成感を忘れず、一つ一つの貴重な経験を大事にして今後の成長に繋げていきたいと

思っています。 研修医として想像以上の経験を積ませていただける環境でした。感謝を胸に今後も医師としてより一層精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（令和3年度採用）中村　文美

私は学生時代、血を見ると迷走神経反射を起こしてしまい解剖実習や病院実習での手術見学、ただの授業の写真ですら何度も気分が悪くなっては倒れてしまっていたのでこのままでは研修医などできないと考え、夢だった精神科医を諦めようとさえ思った時期がありました。そんな時に大学時代の友人から、研修医の人数が少ない病院であれば顔を覚えてもらいやすく、大学での実習のようにローテーションする度に説明する必要はないのではないかとアドバイスをもらいました。自然が多く西鉄電車もＪＲもある大牟田という土地も魅力で、レジナビフェアでお話した研修医の方がとても楽しそうに研修してあるのを見て大牟田市立病院での研修を志望しました。

２年間の研修を終えて、本当にこの病院で研修できてよかったと思います。２人しか研修医がいないので顔を覚えていただくことができ、先生方へのお願いや質問もスムーズにすることができました。先生方はとても優しく、将来こんな医師になりたいと思う先生が何人もいらっしゃいました。この病院でも迷走神経反射を起こすことは何度かありましたが、その度に先生方にご配慮いただき、私にできることをさせていただきました。たとえば外科では手術を見ると倒れてしまいまうことが何度かありましたが、外来での先生方の説明の仕方や患者さんへのお話の仕方など学ぶことも多く、手術や外来陪席など、体調に合わせて選択させていただくこともできました。

大牟田という土地柄も良かったです。研修で受けるまで大牟田にはあまり来る機会がありませんでしたが、緑が多く自然豊かで、ゆったりと過ごすことができます。大学は福岡市だったので友達に会うときは福岡まで出て行くことが多く、特急電車で１時間かかるのが最初は長く感じていましたが、大牟田駅は

始発駅で確実に座れることや往復２時間の乗車時間に映画を１本見られることなどをメリットに感じていました。

研修医は２人だけなので同期は１人ですが、同期にも恵まれ何度も支えてもらい、出身大学は違いましたがこの病院で出会えてよかったと思えました。２年間があっという間でこの病院を離れること、大牟田を離れることは寂しいですがこの病院で研修できたことは私にとってとても大きかったです。

これから、この病院で出会った先生方と同じように患者さんや他の医療スタッフの方にも分け隔てなく優しく接することができる医師を目指して励んでいきます。

【１年を振り返って】

初期臨床研修医（令和４年度採用）阿比留　聡士

大牟田市立病院で研修が始まり１年が経ちました。これまで救急科、麻酔科、消化器外科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科をローテーションさせていただきました。

大牟田市立病院の強みとして、研修医の人数が少ないため指導医からマンツーマンでの指導がうけられ、手技を学ぶ機会が多いことがあると思います。

気管挿管やＣＶ（中心静脈カテーテル）、Ａライン（動脈ライン）など、研修医が身につけるべき手技をする機会がある際は、積極的に上級医が譲ってくださるため、多くの経験を積むことができました。１年目の終わりが近づくと、やや緊急性がある場合で診療に従事させて頂く機会があり、成功体験が自信につながりました。

当院は特に消化器内科が強く、３ヶ月間ローテートし、内視鏡検査を７０件ほど経験できました。望めば望むだけ経験を積むことができる環境であると思います。

その他にも、病院の規模が程よく感じられ、アットホームな雰囲気であることもこの病院のよさだと思います。診療科の医局がワンフロアであるため上級委の先生方との距離が近く、よく気遣っていただき、声をかけていただけます。自分が疑問に思ったことなども気軽に質問

し、教えていただくことができます。当直の際などでは、薬剤師さんに抗生剤について教えていただいたり、放射線技師さんに読影の相談をしたりと他職種の方にも教わる機会も多くあります。

以上のことから、恵まれた環境で研修できていると感じています。一度見学に来られたら当院の研修のよさがわかると思いますので、ぜひ気軽にお越しください。

【１年を振り返って】

初期臨床研修医（令和４年度採用）河合　祐弥

大牟田市立病院で研修を始めてから１年が経ちました。

ひとまず１年間研修を終えてみた感想として、去年マッチングで大牟田市立病院を選んだことに間違いは無かったと感じました。研修医が二人と少ないため先生方やコメディカルの方からしっかりと指導を頂く機会が多く、その分名前と顔を覚えてもらいフレンドリーに声をかけて下さったためとても働きやすい環境だと思います。

研修内容に関しては内科では実際に内視鏡操作を行わせてもらい、外科研修では胆嚢摘出や虫垂切除などを一部執刀したりしました。麻酔科では喉頭鏡での挿管やＡライン確保、脊髄くも膜下麻酔の経験をさせてもらったりと手技の経験として少ないということは無いと思います。特に内視鏡操作に関しては、いわゆるハイパー病院でも経験している人はあまり聞かないので内科志望の人にとっては非常に有意義な経験になると思います。

１年目はあっという間に終わってしまい、自分が成長出来ているか正直不安なところもあります。ですが今年からは後輩も入ってき、これからは自分が１年目の研修医に教える機会も多くなると思うので今まで以上に頑張っていきたいと思います。

【大牟田市立病院での初期臨床研修】

初期臨床研修医（令和５年度採用）西山　佳佑

研修医になって１ヶ月がたちました。最初の研修先は救急科でした。しかし、そもそも何をすればいいのかわからない、電子カルテもうまく使えない、食事形態や輸液や内服の指示に関してもどれをどうすればいいかわからない、というような状態です。さらに救急科ということもあって、救急外来の方には救急車が来るので､ゆっくりはしていられません。

この１ヶ月はある意味、苦難が多い１ヶ月でした。正直に言うと、卒試や国試の勉強もよっぽどきつかったですが､それらの勉強をしていた方がよかったなと思った日もあります。しかし、毎日研修を重ねていくうちにやるべきことも見えてきますし､指導医の先生たちが優しく教えてくださいます。また、木曜日は２年次研修医の先輩方と一緒に救急外来を見るので、先輩との距離も近く、気軽に質問することができて嬉しいです。前述の業務はもちろん、縫合やＣＶカテーテルの挿管などの手技に関しても教えていただきました。

自分で書くのは少しおかしいように感じますが、１ヶ月前に比べると、医学生という立場からだいぶ医師らしくなったと思います。国試の問題を解いているだけでは感じられない､目の前の患者様を救えたという思いは１ヶ月だけでも感じられることができました。

大牟田市立病院の研修医の人数は大学病院や大きな市中病院に比べると少ないですが、その分たくさんの経験ができると思います。

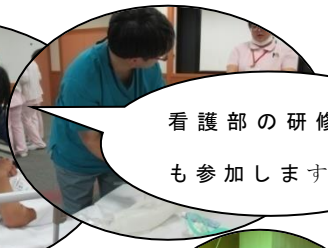
たとえば救急科以外での経験になりますが､新人研修というものがあります。これは看護師さんを中心とした入職１年目の人たちと一緒に研修をするものです。内容としては、社会人としての基本的な挨拶に関するものなどから静脈血採血のやり方など幅広い研修内容になっています。正直なとこと面倒だと感じることもありますが、同期の看護師さんたちと仲良くなれるので楽しいです。

研修生活では大変なこともありますが、成長を感じられますし、楽しいこともたくさんあります。是非見学に来てください。いつでも歓迎します！

医局全体で、臨床研修医をサポートします！

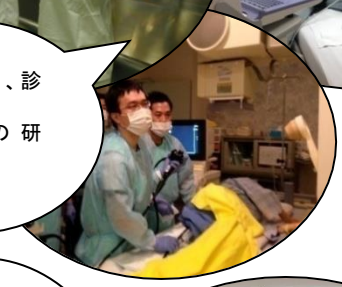
９．研修中の行事例

４月には同期入職者とともにオリエンテーション。



看護部の研修にも参加します。

４月下旬、診療科での研修開始！



夏には、ビーチバレー大会や夏祭りに参加

冬には、キャンドルサービスや互助会のパーティもあります。

学会や研修医フェアなど、院外活動もあります。

そして、めでたく、研修修了！

１０．募集要項と処遇

＜募集要項＞

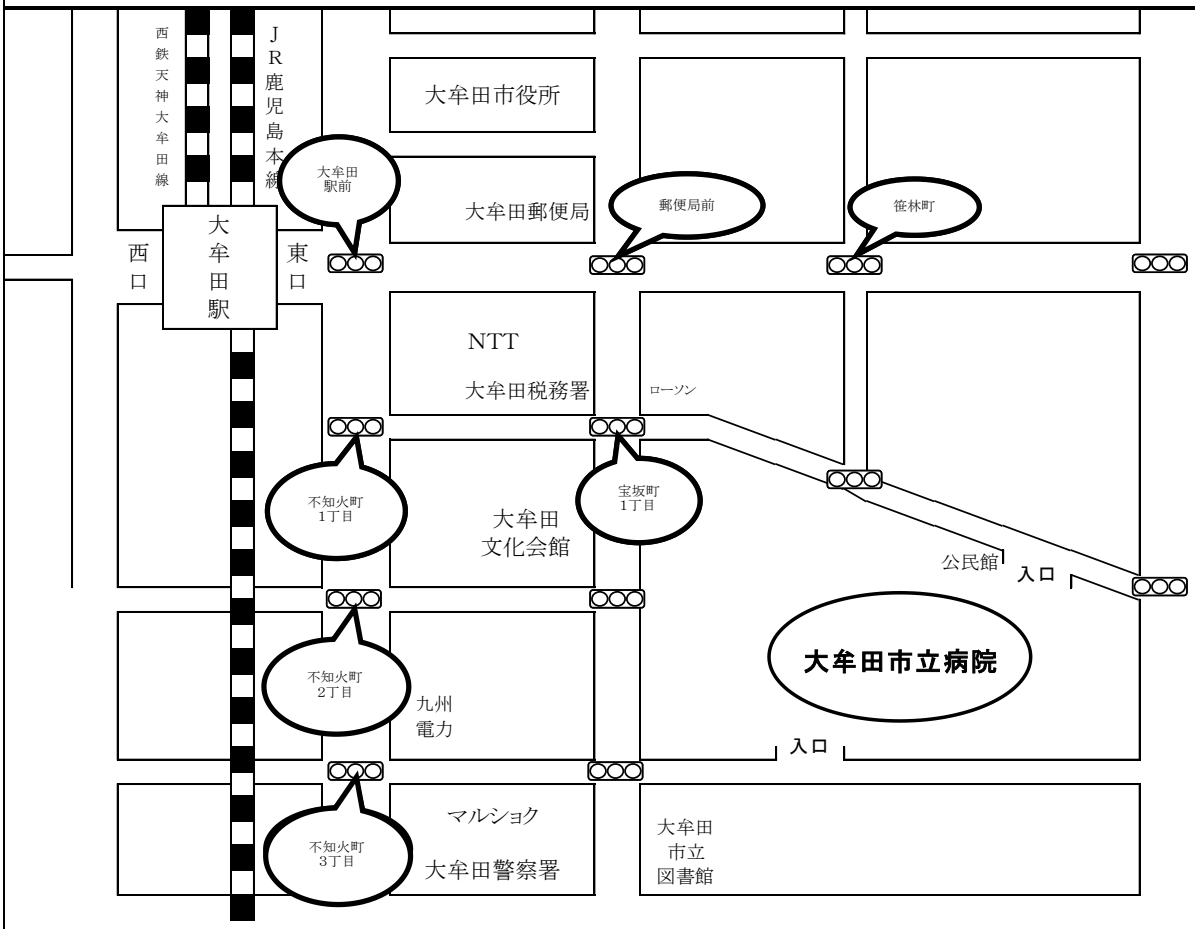
応募資格	令和 6 年度医師免許取得予定者及び平成 16 年以降に医師免許を取得した者で、 令和 5 年度医師臨床研修マッチングに参加登録する者。 なお、地域枠の学生の方は、当院での臨床研修が認められるかご確認の上、ご応募ください。
募集人数	2 名
採用予定日	令和 6 年 4 月1日
研修期間	2 年間
選考方法	面接、小論文
出願書類	履歴書（市販の書式で可）、成績証明書、共用試験医学系 CBT 個人別成績表（写）、 卒業見込証明書または卒業証明書
選考日	令和 5 年 7 月下旬～令和 5 年 9 月中旬の期間で応募者と調整の上、決定
出願締切日	令和 5 年 8 月 31 日（水）（予定）※消印有効 出願書類送付および問合せ先：人事課 〒836―8567　福岡県大牟田市宝坂町 2 丁目 19 番 1 号 TEL　0944-53-1061　E-mail　somu@ghp.omuta.fukuoka.jp ＊病院見学は随時実施しております。遠慮なくご相談ください。

＜処遇＞

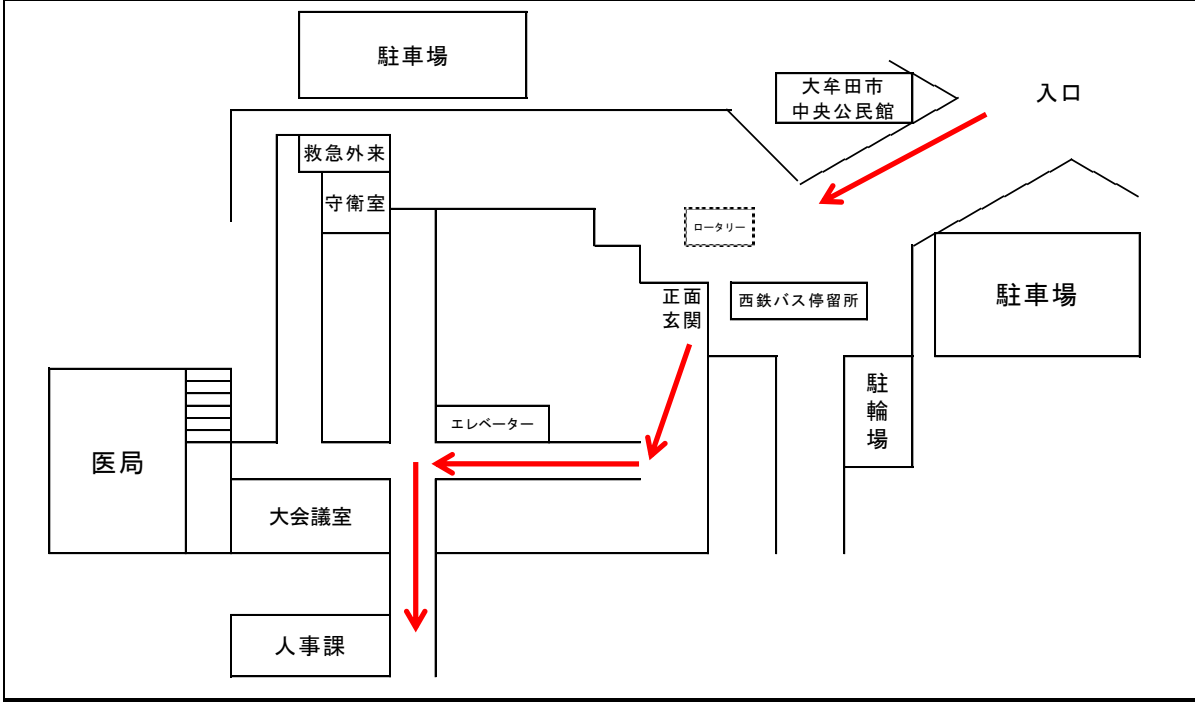
身分	研修医（常勤）
給与	1 年次 334,690 円（給料及び医師手当等） 2 年次 357,360 円（給料及び医師手当等） ＊別途、通勤手当、住居手当等支給あり 副直手当（15,000 円/回）、通勤手当（月額上限 55,000 円）、 住居手当（月額上限　27,000 円）、時間外勤務手当
賞与	あり（令和 4 年度実績　年間　4.4 月分） ＜モデル年収（給与＋賞与＋副直手当）＞ 1 年次‥約 567 万円、2 年次‥‥約 630 万円　※副直手当（月4回で計算した場合）
勤務時間	午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分 ＊指導医の下で、週1回程度の当直（副直）あり
休暇	土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他各種休暇あり（年次有給休暇、夏季休暇、服喪休暇等）
社会保険	各種社会保険加入（福岡県市町村職員共済組合、雇用保険、厚生年金、労災保険）
健康管理	採用時健診、定期健診、歯科健診など
宿舎	あり（3LDK‥‥月額 10,500 円、シェアハウス‥‥月額 3,000 円～4,000 円、水道光熱費別途、駐車場あり）　※宿舎の空室状況により、入居できない場合は、ご相談させていただきます。
医師賠償責任保険	病院で包括加入
研修支援	・学会、研究会参加：参加費用および旅費支給制度あり（当院規定による支給） ・資格取得：当院にてICLSコースおよび緩和ケア研修会受講可能 ・図書室：蔵書・雑誌タイトル多数、文献検索ツール・電子ジャーナル完備、24時間利用可能 ・研修医各自に机、棚、ロッカーあり　・仮眠室あり　・院内保育所あり

１１．アクセス

大牟田市立病院案内図（西鉄・ＪＲ各大牟田駅から徒歩１０分～１５分）



問合せ先

大牟田市立病院　人事課
TEL　0944－53－1061　　E-mail　somu@ghp.omuta.fukuoka.jp
〒836－8567　　大牟田市宝坂町2丁目19番地1

大牟田市立病院　敷地内案内図